

ミニ映画会と山崎知行医師を囲んでのお話し会

ドキュメンタリー「チェルノブイリ 28 年目の子どもたち」映画上映



あの日から6年。事故直後から、体調変化があっても放射能とは一切関係ない、という論説が一般化しています。本当にそうでしょうか？福島県内では県が子どもの甲状腺検査などの健康調査を実施していますが、宮城県内で放射能のことを考える必要はないのでしょうか？

チェルノブイリ原発事故後のウクライナ共和国では国をあげて、事故から30年経った今も被災者支援が続けられています。支援の根本にあるのは「子どもは宝」「事故による全ての被災者に支援・救済が必要」という愛や理念です。

写真 アープロネットTVより

セシウム137やストロンチウム90などの人工核種は何十・何百年も環境中に残り続けます。日本では内部被ばくの危険性にあまり触れられませんが、健康に影響を与える可能性があると思われる事故由来の放射性物質の危険性や防護について学んでいきませんか？

理解を深めるための素材として、ドキュメンタリー映画「チェルノブイリ 28 年目の子どもたち」(OurPlanet-TV 2014年制作・43分)を上映します。上映後にはチェルノブイリ現地を何度もご訪問された山崎医師から補足的なご説明をいただき、ご来場者の疑問や感想、ご家族の心配な症状などについて、ゆるゆるとお話しする場を設けます。チェルノブイリや汚染地域(東日本)での最新情報などに関心がある方のご参加もどうぞ。

子どもたちや私たち自身のために出来ることを、一緒に考えてみましょう。

日 時：2017年 **3月15日** (水) 10時～12時

場 所：放射能問題支援対策室いずみ 談話室 (仙台市青葉区錦町1丁目13-6)

お話し：山崎知行医師 (やまさきともゆき・和歌山県上岩出診療所 内科・皮膚科・小児科)

参加費：200円 (お茶・菓子代、子どもや介助者は無料)

主 催：放射能問題支援対策室いずみ **022-796-5272** (平日9時～17時)

参加人数把握・資料準備などの都合上、事前にご連絡いただけましたら幸いです。託児はありませんが、お子さんとご一緒のご参加もどうぞ。